

指導者のための情報紙

スポーツ少年団

ともだち仲間たち

No.4

発行：財団法人 埼玉県体育協会 埼玉県スポーツ少年団 〒330-0063 さいたま市浦和区高砂3-14-1 埼玉県自治会会館3F

今年も、友情の輪が広がりました！

県ジュニアリーダースクール・県スポーツ少年団大会

埼玉県スポーツ少年団 ジュニアリーダースクール

平成15年8月24日(日)～27日(水)
埼玉県立上尾スポーツ研修センター

～リーダーの、リーダーによる、 スポーツ少年団のための研修会です～

ジュニアリーダースクールは、各単位団や県内各市町村で活動している中学生のリーダーを対象に行われる研修会です。中学生たちは、この研修を通して“スポーツ少年団とは何か”“リーダーとはどうあるべきか”を学んでいきます。参加者をサポートするのは、ジュニアリーダースクールを卒業した高校生以上のスタッフリーダーです。スタッフリーダーは参加者と生活を共にし、参加者が理想のリーダー像を自分の力で描けるようにサポートしていきます。つまり、これは、スタッフリーダーたちの研修の場でもあるのです。また、講義などを受け持つ講師の多くは、団員・リーダーそして指導者と活動を続けてきた人たちです。自分たちが経験してきた事をスタッフリーダーや参加者に少しでも伝えようと、とても熱心に指導にあたっています。

第36回埼玉県スポーツ少年団大会 『ゲットふえすていばる2003』

平成15年8月15日(金)～17日(日)
名栗元気プラザ(旧名栗少年自然の家)

～名栗の自然の中で、元気いっぱい、 交流を行いました～

今年も県内から84人の団員が集い、野外活動を通して仲間づくりを行う“埼玉県スポーツ少年団大会”が開催されました。

残念なことに、3日間とも雨に降られてしまい、予定のプログラムを進めるのにとても苦労したようです。しかし、スタッフとして参加しているリーダー

例年、前期(夏)、後期(冬)の二期制で宿泊研修をしてきましたが、今年は夏休みを利用しての一期だけ(3泊4日)の日程で行われました。これまで、前期で学んだことを各単位団・各市町村で実践し、成果や課題を後期に持ち寄り、研修を深めてきました。今年は1回での、しかも4日間に集中して研修するということもあって、指導する側と受けける側の双方にとっても難しいのでは?と、スタッフは心配していたそうです。しかし、日を重ねるごとに研修意欲も高まり、団結力が深まり、有意義な研修会となりました。参加者のみなさんには、今学んだことを各単位団・各市町村で深めて、今後の活動に生かして欲しいと思います。

<指導者の皆さまへ>

今年も参加者の多くが指導者の声掛けがきっかけで、このリーダースクールに参加しています。

スポーツ少年団活動は小学生までの活動ではありません。中学生や高校生としてのスポーツ少年団活動もあります。指導者からの「リーダーとしてやってみないか」のひとこえが重要になります。これからも、リーダー育成の必要性をご理解いただき、多くの団員への声掛けをよろしくお願ひいたします。

ーたちの活躍で“雨用のプログラム”に切り替え、参加者たちは交流を深め、新しい仲間たちとの友情を育むことができました。



第30回 日本スポーツ少年団 日独同時交流事業 7月20日~8月12日

第30回日独スポーツ少年団同時交流事業で、埼玉県スポーツ少年団から8名の指導者、団員が派遣されました。(一行は数回の事前研修を行った後、出発しました)

関東Iグループ

指導者 棚澤 紗江(熊谷市)
団員 片岡 宏美(川口市)
野田 知里(北本市)

関東IIグループ

団員 栗原 孝臣(岩槻市)
中村亜莉沙(さいたま市)
神田 真季(白岡町)
櫻井 陽子(鶴ヶ島市)
小川 廣美(三郷市)

ドイツに振り回された24日間

棚澤 紗江

第30回日独スポーツ少年団同時交流が7月19日から8月12日までの24日間、102名の参加のもとで行われた。

我が関東I・IIグループは、団員男子3名、女子5名で、地方プログラム、ユーゲント地方デュイスブルクへと、いざ出発と心待ちにしていた。しかし、受け入れ団が来ず、不安で待つこと5時間——、ほっとしたのも束の間、通訳が1週間つかないとのこと。団員はそれぞれホストファミリーへ。

私一人残され辞書を片手に、身ぶり手振りの毎日でした。もっと勉強しておけばよかった…。

8月〇日 デュイスブルク消防署訪問。はしご車体験中、はしご



埼玉県での受け入れ

日独スポーツ少年団同時交流の埼玉県での受け入れは深谷市スポーツ少年団で、心のこもった受け入れをしていただきました。

7月25日(金) ウエルカムパーティー
26日(土) レクリエーション
深谷まつり見学
27日(日) 受け入れ家族プログラム
28日(月) 山梨県 昇仙峡散策
29日(火) 富士急ハイランド
30日(水) 体験研修 ディスカッション
31日(木) レクリエーション
さよならパーティー
8月1日(金) 次受け入れ地宇都宮へ出発

が元に戻らないと騒ぎ出した。冗談と思っていたところ本当に故障。命綱で降りるという本番さながらの経験をしてしまった。

8月〇日 火力発電所訪問。全員ヘルメットをかぶり所内を見学。エレベーターに乗る際、時たま故障するという話を冗談まじりに聞いたが、乗って1・2分後ドンという音とともに動かなくなった。最初はヤラセなどと皆笑っていたが、本当の故障だと知りとたんにパニック状態に陥り、後で酸素のお世話になってしまった。

このように20日間、ユーモア好きなドイツ人に振り回され大小のハプニングも合ったが、無事帰国。

スポーツをおしての交流で感じたことは、スポーツを日常生活の一部とし、また、やらされているのではなく自分で進んでやっている姿を見て、今後の活動に活かせたらよいなと思った。

平成15年度以降の新たな取り組み

育成広報委員会

埼玉県スポーツ少年団は、指導者・母集団・関係各位のご努力、ご協力によりまして、県内最大の青少年団体に成長し、平成14年度に創立40周年を迎えました。

しかし、今日、少子化の進行や学校完全5日制の開始など、少年団活動をとりまく状況が変化していることに加え、子ども自身の体力が低下傾向にあることや地域、学校との連携がいっそう大事になっていくなど、新たな課題も多く生まれています。

そこで当委員会では、課題解決へ向けて、短・中・長期の取り組み目標を定め、15年度以降、鋭意研究し、他の委員会と協力して県本部へ提言し、解決していくにあたり、次の4項目に取り組むことにしました。

1. 団員数増加への取り組み
2. 育成母集団の結成促進と内容充実
3. 本部未設置市町村への働きかけ
4. スポーツ少年団を核とした総合型スポーツクラブの研究と情報提供

関東ミニバススポーツ少年団大会

第22回関東ミニバスケットボールスポーツ少年団埼玉県大会が、7月5・6日、越谷市総合体育館で開催された。男子は上尾ガリバーJrが、女子は深谷ミニバスがそれぞれ優勝、7月25日から群馬県前橋市で行われる関東大会への出場を決めた。

男子決勝

上尾ガリバーJr 62-33 辻ミニバス

男子3位決定戦

戸田ミニバス 33-19 川越中央

女子決勝

深谷ミニバス 45-32 志木スワンズ

女子3位決定戦

児玉ミニバス 44-32 川越フレンズ



マナーの向上について！

埼玉県スポーツ少年団本部では、指導者、保護者の試合会場に於いてマナーの向上を提倡しているが守られていない！

大会会場は、ほとんどが公共施設で開催されています。それぞれ使用規定があり遵守するのが当然ですが、守られていない現状があります。

- *体育館において、上履きにてそのまま外と行き来していた。
 - *体育館のミニバスケット・ゴールにぶらさがつた付き添いの保護者がいた。
 - *体育館の指定場所以外の所に出入りしたり、階段で遊んでいた。
 - *学校のグラウンドにて、タバコの吸いがら投げ捨て。
 - *路上駐車、駐車禁止場所に駐車＜車の運転席等にチーム名、運転者名を表示＞
- 大会だけでなく合宿中、利用施設に迷惑をかけ県スポーツ少年団本部、種目代表へ苦情がありました。各単位団において、もう一度マナー、ルールの徹底をお願いします。

第27回埼玉県スポーツ少年団剣道交流大会

個人戦

小学生低学年

男子①辺見 志道②児玉 恵平③清水 雄貴・千島 光
女子①松井 琴美②平井 萌③大友 歩・小沼 未来

小学生高学年

男子①村井 劍大②坂東 拓郎③須賀 啓太・笠原 賢司
女子①井口美佐紀②黒羽美紗希③小林真奈美・松本 桃子
中学生

男子①森田 隼人②菱沼 浩一③小島 武文・林 友哉
女子①島田 奈美②小島亜里紗③山岸 梨香・竹内絵里子
高校・一般

男子①石川 恵吾②石川 真吾③高閑 晨也・千島 幸太
女子①出雲由香里②董塚 恵③吉川 智子・宮本 伸江

団体戦

小学生低学年

男子①本庄市剣道②春日部剣道③蓮田鍊心館剣・道新田道場
女子①上里町剣道②大滝村剣道③吉見武道館・都幾川剣道A

小学生高学年

男子①荒川村剣道②南越谷剣友③宮代剣友会・松原剣道
女子①荒川村剣道②松原剣道 ③蓮田鍊心館・白桜剣友会

中学生

男子①荒川村剣道②剣道新田道③大池剣道A・春日部剣道会A
女子①荒川村剣道②剣道新田道③大滝村剣道武心館・関根道場



今号では、去る6月に開催されたスポーツ少年団指導者全国研究大会で討議された主なものや、県内での取り組み状況などを中心に掲載いたします。

◆全国研究大会における討議結果

第9回スポーツ少年団指導者全国研究大会は、6月29日、東京都新宿区のホテル海洋において『生涯スポーツとスポーツ少年団—共に手を携えて生涯スポーツを』とのテーマとして開催されました。

同研究大会は、テレビ朝日報道情報局番組センター副部長の宮島泰子氏の特別講演（聞き手は本県副本部長の佐藤高弘氏）が行われた後、各参加者がテーマごとに分かれて活発な論議を交わし合いました。

ここでは、A分科会のテーマである「スポーツ少年団を核とした総合型地域スポーツクラブの育成」の討議結果の概要について触れてみたいと思います。

- * 総合型地域スポーツクラブ化にあたり、その前提として“スポーツクラブありき”ではない。
- * スポーツ少年団が総合型地域スポーツの結成にかかる意義としては、他世代の団員の確保や種目間の壁を超える活動を展開することにより団員の拡充や地域に理解されるスポーツ団体として理解・認知されることになり、結果として総合型地域スポーツクラブ化を目指すことにある。
- * したがって、現時点のスポーツ少年団の対応については、“魅力ある活動プログラムづくり”や“指導体制・運営体制の見直し”を進めるなど活動の活発化を図っていくことが重要である。また、このことが総合型地域スポーツクラブ化の推進の有無にかかわらずスポーツ少年団にとっての大きな課題となっている。

◆県内の取り組み状況

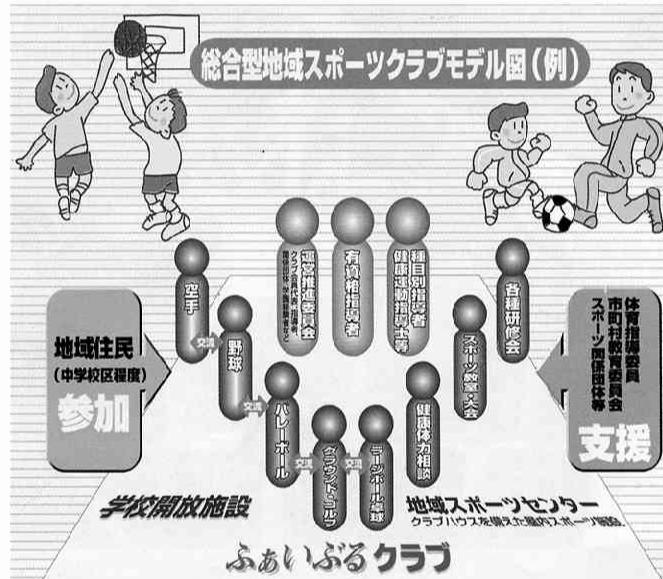
埼玉県内ではこれまで所沢市、川越市、志木市及び伊奈町などで取り組まれてきました。そして、今年の4月には川口市において、同市内のスポーツ関係者やスポーツインストラクターの派遣業務や健康増進施設の立ち上げにノウハウを提供する会社のス

タッフなどの人々が中心になってスポーツクラブが設立されました。

同クラブは種目や競技種目の垣根を越えて子どもから高齢者までが日常的に気軽にスポーツに参加できる環境づくりを活動の目的に据え、総合型地域スポーツクラブを目指して準備を進めていることです。

現在、総合型地域スポーツクラブの組織化に向けて取り組んでいるのは、県内で18の地域と言われていますが、検討・研究を進めているところは相当数あるものと推測されています。

また、総合型地域スポーツクラブを既に運営しているところや今取り組み中のところを含め、その運営主体はNPO法人や行政、大学、スポーツ少年団、既存のスポーツクラブ、スポーツ関連企業など多種多様でさまざまな運営形態があるものと思われます。



埼玉県広域スポーツセンター発行資料より

編集後記

今、世界的な異常気象による影響がさまざまところで現れています。そうした中で、まさに次代を担う子供たちの指導・育成に情熱を傾注されている指導者の皆さんにとっては非常に厳しい日々ではないかと推察いたします。今後のさらなるご奮闘をお祈りします。なお、本誌についてご意見などありましたらぜひお寄せください。

埼玉県スポーツ少年団事務局気付「育成広報委員会」
〒330-0063さいたま市浦和区高砂3-144 埼玉県自治会館内
TEL: 048-822-5171 FAX: 048-822-5174
E-mail: saitamaken@japan-sports.or.jp